

あらたな挑戦に一步踏み出す 夏！

ようやく待ちに待った県の補助金交付決定が正式に通知され、みんなの力を結集して「越後与板打刃物販路拡大事業」が動き出すことになりました。

補助金総額は 335 万円。これまでも取り組んできた各展示会出展事業のほかに、今回は初めて「女性向け」の大工道具開発に与板の知恵と技を結集します。



本格的な道具を使いこなす女子も。ホームセンターの道具に満足できない女子層を、発掘することができるかがポイント。

匠会にとっても、未知の領域にチャレンジする夏。もうすでに大学生や主婦などの協力を得て道具の使用感や利便さを求評するワークショップが始まっています。

女性が大工道具を使ってみたら・・・？お盆休みの 16 日にも、道具の使用感や女性特有の動きを確認するためのワークショップを開催。匠会会員も久住会長の号令の下集結。ごこちない手つきで奮闘する女子たちの奮闘ぶりを見守りました。



最初は慣れない鉋や鑿の扱いに四苦八苦の女子たち。しかし「道具とは手の延長」の言葉どおり、少しコツがわかってくると刃物の切れ味の良さが理解でき、つい試技ということをおぼえて削りに夢中になります。

半日の工程で「こっちが使いやすいね。」「この指が痛くなる。」「見た目はこれが好き。」といった感想や意見が集められました。これを女性向け提案製品にどう生かせるか、職人さんの工夫にかかっています。

「与板刃物の新星」岸本さん 奮闘中！



河政さんの下で刃物づくりの基本を学ぶ。今後は匠会メンバーのサポート

を受けて、順次各工房を回り研修を受ける予定。真夏は鍛冶屋の仕事場は過酷な現場。それにもめげず、一筋に黙々と打ち込む岸本槇子さんの姿がありました。伝統工芸技術にチャレンジする若い岸本さん、各界から取材も相次いでいます。本人はいたって謙虚で「まだまだです。注目されるのがはずかしいです。」とはにかむ。岸本さんには国の若者人材育成チャレンジ事業のサポートを受けながら、今後もぜひ、長く頑張ってもらいたいと思っています。まさに、女性が刃物職人としても輝くモデルとして、与板打刃物は、未来を託す覚悟で支援する必要があります。